

「世界一危険な」普天間基地の即時閉鎖・撤去を！ いつまで米軍基地置いておくの？

米軍基地はいらない の声を今こそ 大きくこぼそう

8月13日、沖縄国際大学に米軍大型輸送ヘリが墜落炎上事故を起こして、丸一カ月がたちました。その後も、沖縄では米軍機の事故が相次いでいます。

普天間基地は、人口9万人の宜野湾市のご真ん中にあり、住宅密集地の上を数十機の軍用機が毎日飛びまわっています。「世界で最も危険な基地」普天間の即時閉鎖・撤去と名護への移設反対こそ、宜野湾市民・沖縄県民の強い願いです。

まるで植民地、

県民のいかり爆発

ヘリ墜落直後、米軍は現場を封鎖し、県警の現場検証も拒否、マスコミも大学関係者も機体に寄せつけないで、勝手に撤去しました。

「日米地位協定」にさえ違反した米軍の横暴勝手に抗議ひとつせ



ず、県民の大多数が反対している名護・辺野古沖への移設・新基地建設を加速しようというのが小泉内閣です。

イラクで無差別攻撃を繰り返しているのが沖縄の海兵隊、墜落したヘリもイラク出動のための訓練をしていたように、在

- * 「普天間基地無条件返還と国内外への移設」 81%
 - * 「名護・辺野古沖移設賛成」 6%
 - * 「日米地位協定抜本改定」 71%
- (「琉球新報」8/20)

日米軍と基地は日本防衛のためでなく、アメリカが海外で戦争するために置かれてるのです。

「日本を守るものではない。だから遠慮なくアメリカに帰ってもらおう」(伊波・宜野湾市長)という声、いま、沖縄でも全国各地でも大きく広がっています。

危険で屈辱的な安保条約をやめ、 対等・友好の日米関係を

日本がアメリカいいなりを続ける原因は、日米安保条約にあります。いまアジアでアメリカと軍事同盟を結んでいる国は、日本と韓国だけです。安保条約を廃棄してこそ、すべての基地被害をなくし、憲法9条を生かした平和外交をすすめ、アジア諸国をはじめ世界の国々と仲良くできます。